

1. 幼稚園の教育とは

幼稚園は義務教育及びその後の教育の基礎を培うものとして、幼児を保育し、幼児の健やかな成長のために適当な環境を与えて、その心身の発達を助長することを目的とする。(学校教育法 第二十二條)

「健康」-心身の健康に関する領域-

健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活を作り出す力を養う。

「人間関係」-人との関わりに関する領域-

他の人々と親しみ、支えあって生活するために、自立心を育て、人とかわる力を養う。

「環境」-身近な環境との関わりに関する領域-

周囲の様々な環境に好奇心や探求心をもってかかわり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養う。

「言葉」-言葉の獲得に関する領域-

経験したことや考えたことなどを自分なりの言葉で表現し、相手の話す言葉を聞こうとする意欲や態度を育て、言葉に対する感覚や言葉で表現する力を養う。

「表現」-感性と表現に関する領域-

感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする。

(幼稚園教育要領より抜粋)

2. 東一の江幼稚園の教育

東一の江幼稚園教育目標

いつもにこにこ元気な子ども
思いやりのあるやさしい素直な子ども
伸び伸びと創造性の豊かな子ども



教 育 方 針

1. 明るく健康な精神と元気な活力に満ちた心身の基礎を築く
2. 基本的な生活習慣と正しい社会的態度を育成し、豊かな情操を養う
3. 伸び伸びとした表現活動を通して創造性を養う
4. 自主・自発的な活動を促し、自立する心を養う
5. 毎日の遊びや活動の中で健全な心身を養う

遊びこむ中での学びを大切にする

ヒトは「やりたい！おもしろい！」という気持ちが出発点となって様々なことを学びます。子どもにとって遊びは「やりたい！」のかたまりです。また、「楽しい」経験をたくさんした子は自信を持って行動したり、チャレンジしたり、さらにはこの先も楽しいことがあると信じることもでき、前向きに人生を歩んでいきます。

遊びのなかには、たくさんの学びがあります。考えたり、工夫したり、協力し合ったり、いろんな思いを感じたりなど。遊びの中でこれらの経験をしてたくさんの“後伸び”する力、目には見えない力を育むことが幼児期には大切です。「手はおひざ」できちんとしているけれど、何も考えられない子どもには育てたくありません。

様々な関係の中で遊ぶ・学ぶ・生活する

担任だけでなく、さまざまな立場の教職員がすべての子どもの育ちを援助します。また、遊びの中で様々なクラスや園庭で異年齢の子どもたちが関わります。さらに、中学生・高校生の職場体験、大学生の教育実習なども積極的に受け入れ、子どもが多様な人と関われる環境をつくります。

幼稚園の環境

保育室は冷暖房完備。遊びが広がるように廃材用の倉庫も設置しています。園庭には四季それぞれに実る果樹があります。また、幼稚園専用の畑やプランターでの栽培やインコやうさぎなどの小動物もいます。

生活を豊かにする行事

東一の江幼稚園の行事はみせるためだけでも、やらせるものでもありません。子どもが主体となって取り組めるよう計画し、子ども自身が生活を豊かにできる行事を目指しています。

充実した教師陣

担任はもちろん、すべての教員が幼稚園教諭免許状を取得しています。教員は園内研修や外部研修などにも参加するなど、日々研鑽を積み、教育がより充実したものになるよう努力しております。また、園長は玉川大学教育学部准教授を兼任し、大学との連携を図ります。

家庭との連携を考えて

子どもの育ちを考える上で、家庭との連携は欠かせません。お電話、直接のお話、保護者会など多様な方法で日々、家庭と連携を図ります。また「育ちのノート」でお子様の育ちをご家庭と共有します。(2ヶ月に1回程度)

子どもは親だけが育てるわけではありません。親同士、幼稚園、地域、みんなで協力し合って、みんなの子どもを育てていきましょう。

なお、欠席の連絡や園からのお知らせ、バスの運行状況などはスマートフォンのアプリを通して行っております。

3.クラス編成・教員数

園児数

257名(6月1日現在)

満3歳児1クラス 他3クラス 計10クラス

(1クラスあたり、満3歳児クラス20名・年少～長組25～27名程度)

担任教員について

- ・満3歳児 担任1名・支援教諭1名×1クラス
- ・年少組(3歳児) 担任2名×3クラス
- ・年中組(4歳児) 担任1名×3クラス
- ・年長組(5歳児) 担任1名×3クラス

その他教員ほか

理事長、園長、副園長、支援教諭5名、預かり保育教諭5名、事務長1名、バス運転手3名2歳児親子ひろば担当教諭2名、

